

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ ライブラリーセンターで原作を。

村田 慶史
(薬学部教授・学術資料部長)

利用学生の声

⇒ 私の図書館の利用と読書

並木 花衣
(未来創造学部 国際教養学科 4年次生)

⇒ 図書館の利用について

ソウ エツ
蒼 越
(未来創造学部 国際教養学科 4年次生)

⇒ 私の図書館利用について

笠原 秀行
(薬学部 薬学科 1年次生)

⇒ 読書手帳

安田 優
(未来創造学部 国際教養学科准教授)

⇒ 平成24年度学術資料委員紹介

⇒ 寄贈図書

⇒ 目次

HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報



ライブラリーセンターで原作を。

薬学部教授・学術資料部長 村田 慶史



「放課後の理科室、ラベンダーの香り、そしてタイムトラベル…」

日本を代表するSF作家“筒井康隆”氏の『時をかける少女』は、45年以上も前に出版され、何度も映画化されてきたベストセラー小説であり、現在でもアニメ等によって多くの人達に知られている。1983年に公開された初作の映画（“大林宣彦”監督）は、主演女優“原田知世”の初々しさ（勿論、今でもそうです）だけでなく、美しい瀬戸内海を見下ろすロケ地・尾道の光景、タイトルと同名の主題曲（“松任谷由実”作詞・作曲）のメロディとあいまって、SFファンを魅了する作品に仕上がっていた。なお、映画のラストシーンでは、少女時代の不思議な体験を実現すべく、主人公が薬学研究者となって……。あの白衣姿は確かに可愛かったな。

筒井氏自身のこの小説に対する評価は高くないとされるが、私としては（多分）まだ多感な頃に原作を夢中で読み、後に上記の映画を鑑賞した時も、ストーリー展開の面白さにあらためて感動した記憶がある。読書習慣に関して振り返ると、国語の教科書に紹介されているいわゆる名作を、常識だから、試験に出るからという理由で手に取っただけの自分が、これを機に自発的に本と接するようになった気がする。そして、真夏の静かな避暑施設、あるいは友人との待ち合わせ場所程度にしか意識しなかった各種の図書館が、未知の書物をふんだんに蓄えた宝庫であることに気付く。雑読のまま、“星新一”氏等の短編小説が枕元に並び、何を思ったか薬学の道に進む。学部や大学院において、難解な学術論文の理解に頭をかかえながら過ごすようになってから、図書館はさらにその存在感を増したが、今でも、そこに行けば、短い人の一生では修得できない、先人たちが積み上げてきた膨大な知識に教えを乞うことができるし、時に自分の無能さや、考察の未熟さを再確認させられる。

閑話休題、多くの皆さんはこのような本との出会いを経験し、図書館の存在意義を十分に理解されていると思う。分野を問わず、書物は読者の想像力に問いかけ、その世界を無限に広げていく。とりわけ大学の付属図書館は、文学、哲学、経済学、医学、工学、天文学、等々、さまざまな領域の専門書が並んでいる。そこは一生懸命に未来を創造しようとする若者達が集うにふさわしい場所であり、書物は学究する人々の知的好奇心に答え、学ぶ指針を示唆し、それらに触れた人の生き方に影響を与える。日頃は実験データと理論に基づいて考える習慣に縛られ、「頭がカタイ」と指摘される私のような理系人間でさえ、書物の持つ力によって知らず知らずに人生を導かれてきた。もちろん、最近の図書館は各種の雑誌や新聞、インターネットが整備され、あらゆる情報を入手できる場所となっている。

ということで、素晴らしい自然にも囲まれた本学のライブラリーセンターをぜひ活用して欲しいことを記すため、乱文で紙面を汚してしまったことお許しいただきたい。情報が氾濫する現代社会、そのエッセ

ンスを手っ取り早く映像で観たり、ネット検索することは容易であるが、文面や行間を読みながら、作者の意図するところをじっくりと考え、情景を想像するという作業は、“茂木健一郎”先生が推奨される、いわゆる“脳にいい習慣”に違いない。御存知、世界中の映画界を席捲した『ハリーポッター』シリーズも、昨年、若者たちの流行語を生み出した『謎解きはディナーのあとで』など、映像化された数えきれないほどの人気ドラマも、もとは一冊の原作からスタートしたのではないか。そうだ、まずはライブラリーセンターで原作を読んでみよう。

図書館は、いつの間にか齢を重ねてしまった少年少女が、自由にタイムトラベルできる空間でもあると思う。学会出張の移動中や、狭いビジネスホテルの机で、PCに向かいながら情報整理、試験問題や論文の作成などに追われる日々を送るようになって、図書館で過ごす時間の大切さや書物の有する力を痛感しているこの頃である。

利用学生の声



私の図書館の利用と読書

未来創造学部 国際教養学科 4年次生 並木 花衣

私は図書館を勉強する場所としてよく利用しますが、みなさんはいかがですか。北陸大学には素敵な場所がたくさんあります。中でも図書館は静かで集中しやすく、落ち着いた雰囲気なので大好きです。図書館には色々な部屋がありますが、4階の大きな窓がある部屋が私のお気に入りです。3年前、私がまだ1年生のときに友達に誘われて初めてその部屋に入り、本を読みました。読書の途中で、ふと目を休めて窓を見ると、驚くほど開放的な景色が目に飛び込んできました。北陸大学のキャンパスには自然や緑がたくさんあり、きれいですが、その部屋から見える眺めが私のお勧めの景色です。読書や勉強に集中しすぎて疲れた時、窓の外を眺めるだけで疲れが癒されて、集中力を取り戻すことができます。

このお気に入りの場所を見つけた時から、私は大学の図書館をよく利用するようになりました。勉強する時や宿題がある時には必ず図書館に行きます。私は国際教養学科で英語を履修していることもあり、英語に力を入れて勉強したり、卒業研究では英語文化や文学について学んだりしています。そのため英語教材や文学作品をよく借ります。図書館にはTOEICや英検対策本など語学を勉強するための教材が揃っていることをみなさんは知っていますか。本だけではなく付属のCDも貸し出してくれるので便利です。TOEICや英検の勉強をする時にはたくさん問題を解く方がいいと思います。語学力アップのためには、授業に真剣に取り組むことはもちろんですが、それ以外でも自分で勉強をすることが大切です。図書館の教材を効率的に利用すれば語学力もアップすると思います。また、もちろん図書館には小説などの文学作品もたくさんあります。中には英語で書かれた小説もあり、自分の力にあった本を選ぶことで、教養を高めるだけでなく、英米文化や英語の学習にも使えます。

大学の図書館には難しそうな本しか置いていないイメージがあると思います。でもベストセラー小説や漫画などの読みやすい本もたくさんあります。勉強して疲れた時にそういった本を読むのもいいと思います。また、図書館にはパソコンもあるので、パソコン教室が使えない時にも私は利用しています。図書館というと、堅苦しい感じがするかもしれませんが、実は気軽に使える、私たち学生にとってとても便利な

空間なのです。

私は図書館をよく利用します。それはなぜかと考えると、たぶん私の家の近くに市立図書館があったからです。幼稚園の頃にはお母さんと一緒に子供のための読み聞かせ紙芝居を見に行っていました。高校生の頃には、受験のために毎日、友達と図書館で勉強しました。きっと図書館に行くことが習慣化していたので、今でも図書館をよく利用するのだと思います。同様に、読書もまた習慣だと思います。読書が苦手な人でも、自分に合った面白い本に出会えば、読書を好きになれると思います。実際、私も昔は読書が好きではありませんでした。私の中学校には「朝読書」という時間がありましたが、当初、その時間に本を読むことは苦痛でした。しかし、「朝読書」のためになんとなく選んだ本がとても面白く、悩んでいた私に勇気を与えてくれました。その本が、私の悩みが取るに足らないことだと気づかせてくれたことを今でも鮮明に覚えています。その体験以来、私は色々な本をもっと読みたいと考えるようになりました。

大学の図書館の1階には読者の感想やコメントと一緒に小説が置いてあります。本を読みたいけれど何を讀むかなかなか決まらない人は、そこから読書を始めましょう。本を読む習慣がない人は漫画から読書を始めてみましょう。読書に興味がある人、勉強をしたい人はぜひ、図書館に立ち寄ってください。私も残り少ない大学での時間を有効に使い、たくさん本を読み、新しい考え方や発見ができたらいいなと思います。みなさんも図書館で本を読んだり、勉強したりして、私と一緒に視野を拓けてみませんか。

図書館の利用について

未来創造学部 国際教養学科 4年次生 **ソウ** **エツ**
蒼 **越**



初めて北陸大学の図書館に入ったとき、その清潔さときれいさに深い印象を受けました。皆がルールを守って静かに自習していて、飲食する人、しゃべる人、電話を使う人はほとんどいません。そして、図書館では、机や椅子などがすべて木で作られているので、とても和風の落ち着いた雰囲気に包まれています。窓の外には、北陸の美しい景色が広がり、勉強して疲れた時にもふと息抜きもできます。

図書館の1階には、多数のパソコンが整っています。勉強のために参考資料を探ことができ、印刷することもできます。図書を利用しながらインターネット上の情報を検索するときなどは、情報センターや国際交流センターにわざわざ行ったり、家に帰ってから探したりする必要がなくなりますので、本当に便利です。私は、よく参考図書を参照しながら、アルベスを利用して授業の復習をしています。もちろん図書館の本を探して借りたい場合も、1階から4階までどこでもパソコンで検索できるので、大変便利です。

2階と3階には、多数の専門書があります。特に私をはじめて日本にきて専門の勉強をするときに、非常に役に立ちました。最近、卒業論文のため、何冊もの専門書を読んでいます。中国人の観点と少し違う日本人の視点から、さまざまな問題が論じられているので、専門知識を身に付けられただけでなく、視野も広がりました。

また、本を借りるとき、私たち学部学生は図書を5冊まで1週間借りることができます。図書のみならず、雑誌も貸し出してもらえるので、大変便利です。私は図書館の1階で雑誌や新聞を読むことが好きです。日本語のみならず、英語、中国語の雑誌や新聞もたくさんあります。中国人留学生にとって、久しぶりの中国語の新聞は故郷のニュースをもたらし、中国にいるような懐かしい感じがします。

2階には、多数の英語の小説があります。それらの小説は語彙の難しさにより、レベル1からレベル6まで分けられています。自分の英語力に応じて、相応のレベルの小説を選ぶことができます。面白い小説を読みながら、自分の英語力も伸ばすことができるのです。また、試験対策コーナーには、模擬試験の問題集も多数そろっています。1階のカウンターには、リスニング用のCDもあります。私は、TOEICの試験勉強のために問題集やCDをよく活用しています。

図書館の開館時間も長くて便利なので、授業がないとき、宿題があるときもよく行きます。週末や祝日も勉強したいなら、図書館で自習することができます。大学院の入学試験準備をしている学生にとって、一番のメリットであり、学習の効率もあがるでしょう。

皆さんにお勧めしたいのは、1階に推薦図書が並んでいるので、好きな本をピックアップして読んでみることです。これまで手にとることのなかった分野の本を読んでみると、意外な発見があり、読書が楽しくなってくるでしょう。

少し残念なことは中国語の本が少なくてちょっと古いことです。中国から来た留学生にとっては、日本語の勉強が大事ですが、暇のあるときに中国の本を読みたいと思っても、なかなか読みたい本に巡り合えないのが、残念です。

では、皆さんも、こんなにきれいな図書館に行って、勉強の雰囲気に浸かって、問題や悩みも棚上げして、充実したひと時を過ごしてみませんか。

私の図書館利用について

薬学部 薬学科 1年次生 笠原 秀行



高校まで入る気がなかった図書館。北陸大学に入学して約5ヵ月、いま一番落ち着ける場所です。ここでは、私にとっての図書館利用をご紹介します。

1. 勉学・レポート作成の場

私が図書館を利用する主な目的は、主にレポート作成と勉強を行うためです。図書館のパソコンでアルベスを利用して復習や予習を行い、レポートを作成します。

特にプリンターが使用できるので、レポート量が多くても安心です。図書館での勉強は、静かで集中しやすいため勉強がはかどります。また、疑問や不明な単語をすぐ調べられます（パソコンならば、数秒で検索できますが）。目的の本を見つけ出し、自分の手でページをめくるといことが、大切なかも知れません。

2. 読書の場

人が生きていくためには知恵が必要です。しかし、寿命には制限があるので一つひとつ体得していくことは困難です。また、くじけそうな時・落ち込んだ時にいつも周りの人が励まし、話を聞いてくれるわけではありません。そんな時に本ならば、先人の知恵・人生訓などを学べます。伝記もあります。頼るべき人がいないとき、自分を奮い立たせる言葉を見つけるために図書館に本を探しに来ませんか。

3. 休養の場

とにかく静かなので、集中できます。慌しい日常の中で、「ほっ」と一息つける場所として最適だと思います。一人物思いに耽るのも良いのではないのでしょうか。特に午前中は脳が一番働く時間帯なので、意識している以上に脳は疲弊しています。目を閉じて15分でも瞑想をすることは2時間の睡眠にも匹敵す

る安静効果があるそうです。午後の講義を有意義に（講義中起きているように）過ごすためにもお勧めします。夏はクーラー・冬は暖房が効いていて最高のくつろぎ場所になります。

ここまで本学の図書館について紹介して来ましたが、県立図書館・市立図書館を利用する人もいます。私も、町の図書館で絶版の本を借りられた時は大変嬉しかったです。私は機会あって他大学の図書館のお手伝いをしたことがあります。そこでは勉強やレポート作成する場所として利用されていた様です。参考文献の為に本を借りていく学生が多かったです。専門書が豊富な反面、一般図書の冊数が少ないので来館する人は限られていました。新刊図書を一番初めに目にすることができるという利点がありました。

最後に北陸大学の読書感想・紹介文（読書コメント大賞応募作品）は、図を使った物が多くみんな創造性豊かだなあと感心しています。自分で感じたことを、人に伝える練習にもなりますのでお勧めします。私も一度、書いたことがあります。自分の思っていることを表現できなくて四苦八苦しました。

図書館は本を読む習慣を持てるようにするきっかけ作りの場であり、手段を提供してくれるベストの場だと思っています。友人との交流もちろん大切ですが、普段接しない自分の内面とじっくり向き合う機会も大学生の内にはしか出来ないと思います。レポート・勉強以外にも月1度で良いので、図書館での空間を味わってみてください。



読書手帳

未来創造学部 国際教養学科准教授 安田 優



皆さんはどのような時に本を手に取りますか。何か新しい知識を得たい時でしょうか。それとも小説などを通して異文化や非現実的な世界に触れてみたい時でしょうか。どのような本を読むにしても、その経験は皆さんの人生に何らかの点で必ず役に立ちます。しかし、同じ時間を使って読書するのなら、今すぐに役に立つ本を効率的に読んでみたいと思いませんか。本を選ぶ際には、メディアや書店による書籍紹介を利用する人もいれば、同級生や先輩・後輩が書いた読書コメントを利用する人もいます。もちろんそれらを活用するのもいいのですが、北陸大学には皆さんが本を選ぶ際に、信頼できる拠り所になる『読書手帳』というものがあります。そこでは北陸大学で教えている人生経験豊かな先生方が「大学生である皆さんが今、読むことで役立つ」という視点から選んだ書籍が紹介されています。皆さんに常に向かい、皆さんが今、何を必要としているのかをよく知っている先生方が選ぶ書籍を読むことで、直接・間接的に知的能力や人間力の向上につながります。何を読めばいいか迷った時にはぜひ『読書手帳』を活用してみてください。

平成24年度学術資料委員紹介

村田 慶史	学術資料部長、読書感想文コンクール審査委員	薬学部教授
渡辺 和人	紀要編集委員長	薬学部教授
安池 修之	読書感想文コンクール審査委員	薬学部准教授
田中 康友	副委員長、読書感想文コンクール審査委員長	未来創造学部准教授
安田 優	紀要編集委員	未来創造学部准教授
井上 裕子	紀要編集委員	教育能力開発センター講師
加藤 幸子	読書感想文コンクール審査委員	教育能力開発センター講師

寄贈図書

本学の教職員等から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書名	寄贈者
「薬学物理化学演習」	上森 良男 (薬学部教授)
「天然医薬資源学」	木津 治久 (薬学部教授)
「新衛生薬学系実習」	木村 敏行 (薬学部教授)
「self-learning 物理薬剤学」	古閑健二郎 (薬学部教授)
「New 薬品分析化学：化学的分析法の基礎と薬学への応用」	藤井 洋一 (薬学部教授)
「わかりやすい生物薬剤学」他 計2冊	村田 慶史 (薬学部教授)
「法医裁判化学」	渡辺 和人 (薬学部教授)
「写真集 三陸紀行」	長谷川孝徳 (未来創造学部教授)
「梦里不知身是客」他 計4冊	王 涵 (教育能力開発センター教授)
「手渡して伝えたい 情報コーディネーター鍼灸」	宮村 健二 (学外講師)
「鍵のない夢を見る」他 計18冊	泉 洋成 (事務局長)
「羽のない天使たちへ」	窪田 庸子 (カウンセラー)

CONTENTS

	頁
○ ライブラリーセンターで原作を。……………	1
○ 利用学生の声	
・私の図書館の利用と読書……………	2
・図書館の利用について……………	3
・私の図書館利用について……………	4
○ 読書手帳……………	5
○ 平成24年度学術資料委員紹介……………	6
○ 寄贈図書……………	6



北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY

北陸大学ライブラリーセンター報

NO.33

平成24年9月14日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター

〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1

TEL. 076-229-3021

FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp

北陸大学ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/

印刷：カンダ印刷株式会社

※ライブラリーセンター報は、大学ホームページでもご覧いただけます。